セイタカアワダチソウの栄枯盛衰

「セイタカアワダチソウ」と聞くとどうも印象がよくない。かって人の噂は、花粉が飛んで洗濯物を汚すとか、今のスギ花粉のように、花粉症を引き起こすとかいい、セイタカアワダチソウを非難した。荒れ地での旺盛な生育のためか、北九州で（炭坑の）「閉山草」と呼ばれていたと本で読んだ（週刊朝日百科「世界の植物」第２号、昭和50年）。現代では、休耕田に繁茂する。

だが、セイタカアワダチソウの花言葉を調べると、「生命力」。たぶんこれはほめ言葉だろう。

セイタカアワダチソウの花は、近づいてよく見るとけっして悪くない。数十年前のひととき観賞されただけのことはある。きく科の一員。

また、晩秋の花の少ない時期に咲くので、蜜源として養蜂家に利用されているという。「花粉症」もぬれぎぬだったようで、今ではその座をスギに譲ってしまった。

意外なことにこの植物には「いや地」があり、同一の場所には長続きしないという。ある人が予言した。やがてススキがセイタカアワダチソウを凌駕するだろう。この予言は当たっているだろうか。

セイタカアワダチソウとススキが競い合う場所